

日本鉄鋼協会記事

評議員会理事会

第1回評議員会、第7回理事会 開催日：2月20日。
出席者：久松会長，ほか49名。

1. 昭和61年度事業報告，収支決算ならびに財産目録の件，昭和62年度事業計画，収支予算の件。

本件は会計分科会，企画委員会の審議を経ており，事業と会計に分けて説明があつた。

一般会計，別途資金会計，特別会計いずれも原案どおり，承認された。ただし，総会に報告する決算額は2月末日で締切つた後に確定するため，その内容は会計分科会に一任することになった。

2. 次期理事，監事ならびに評議員推薦の件

次期役員候補選考委員会において選考された原案どおり承認した。

3. 名誉会員推挙の件

石原重利君（新日本製鉄（株）常任顧問），井上道雄君（名古屋大学名誉教授），盛利貞君（鉄鋼短期大学学長）クレミング君（マサチューセッツ工科大学教授）の4氏を今春の通常総会で名誉会員に推挙することを決定した。

企画委員会

第8回企画委員会 開催日：2月19日。出席者：栗田委員長ほか20名。

1. 表彰奨励推薦分科会報告

京都賞候補

メルトン，フレミング氏（マサチューセッツ工科大学教授）

書面審査の結果，上記候補を推薦することを決定した旨報告

2. 学生見学会検討委員会報告

佐久間健人君（東京大学工学部教授）を委員長とする標記委員会を設置し，検討を続けてきたが，第3回以降の学生見学会を継続開催するとの結論となつた。なお第3回は昭和63年3月に開催する予定。

編集委員会

編集運営委員会 開催日：2月13日。出席者：坂尾委員長，ほか20名。

第50回依論文賞の選考を行つた。候補として推薦された論文38件を対象に検討し，5件を受賞論文として選出した。

第11回和文会誌分科会 開催日：2月13日。出席者：坂尾主査，ほか29名。

1. 34件の論文審査報告がなされ，掲載決定20件，照会后掲載可9件，修正依頼1件，その他4件であつた。

2. 「鉄と鋼」第73年第8号（6月号）に論文13件，技術報告1件掲載決定した。

第11回欧文会誌分科会 開催日：2月5日。出席

者：加藤主査，ほか14名。

1. 11件の原稿について審査報告がなされ，掲載可2件，照会后掲載可3件，修正依頼6件であつた。また，New Technology 1件につき報告がなされ修正依頼であつた。

第6回講演大会分科会 開催日：1月23日。開催地：神田学士会館本館。出席者：細井主査，ほか57名。

1. 前回議事録確認

2. 第113回講演大会原稿査読結果の報告

3. 使用記号，略語等の取扱いについて

4. 第113回講演大会のプログラム編成

鉄鋼技術情報センター運営委員会

第32回情報検索委員会幹事会 開催日：2月16日，出席者：山田委員，ほか7名。

1. マニュアル作成費用等の検討

第8回BDB共同実験WG 開催日：1月23日。出席者：田村委員，ほか7名。

1. マニュアル原稿の細部訂正等

図書資料委員会WG-2打合せ会 開催日：2月3日。出席者：西垣主査，ほか9名。

1) WG-2の今後の運営について

2) その他

情報管理共同研究会第5回著作権分科会 開催日：2月20日。出席者：福井義典主査，ほか7名。

著作権に関する文献調査，情報管理業務と著作権について，標記共同研究会報告まとめを検討し，本分科会を閉じることとした。

共同研究会

第28回電気炉部会 開催日：11月13,14日。開催地：吾嬭・仙台，東北スチール。出席者：小倉部会長ほか，81名。

1. 特別講演

「当社の数年の歩みと製鋼技術の現状について」

吾嬭・仙台・副所長 田口喜代美氏

2. 研究発表

(1)共通テーマ 18件

「主原料管理とその使用方法」

(2)自由テーマ 8件

3. 工場見学

吾嬭・仙台，東北スチール

第81回特殊鋼部会 開催日：11月20,21日。開催地：大同・星崎，日金工・衣浦。出席者：栗栖部会長ほか，100名。

1. 特別講演

「星崎工場における最近の製鋼技術」

大同・星崎工場次長 福本行雄氏

2. 研究発表

(1)共通テーマ 15 件

「各社のステンレス精錬プロセスの現状と最近の操業改善」

(2)自由テーマ 3 件

3. 工場見学

大同・星崎, 日金工・衣浦

特定基礎研究会

第2回 特定基礎研究会運営委員会 開催日: 12 月 5

日. 出席者: 加藤委員長ほか, 15名.

1. 各分会活動報告および昭和 62 年度活動計画
2. ソフトウェア開発管理規程について
3. 昭和 62 年度特定基礎研究会費予算

第4回鉄鋼材料の相界面・結晶粒界の設計と制御部会
開催日: 2 月 5 日. 出席者: 石田部会長ほか, 8 名.

研究報告

Ni 合金中の fcc/dcc 異相界面構造と複合析出相

- (1)Ni-Al-Mo 合金 fcc/bcc 界面
- (2)Ni-Cr-W 合金 fcc/bcc 界面
- (3)Ni-Al-Mo 合金中の複合析出相

熱延プロセス冶金研究委員会

第14回熱延プロセス冶金研究委員会 開催日: 11 月
27 日. 出席者: 田村委員長ほか, 16 名

「極低炭素鋼の熱延組織微細化」および「再結晶粒径」について話題提供があり活発な討議が行われた。

第15回熱延プロセス冶金研究委員会 開催日: 2 月
13 日, 出席者: 田村委員長ほか, 16 名.

- (1)材質予測制御モデルの開発
- (2)制御圧延・制御冷却における相変態のコンピュータシミュレーションの基礎.

鉄鋼基礎共同研究会

第3回界面移動現象部会 開催日: 1 月 28 日. 開催
地: 東京大学生産技術研究所. 出席者: 徳田部会長, ほ
か 23 名.

議事;

1) ワーキンググループ活動報告
スラグフォーミングに関するアンケートの中間報告があ
った.

2) 研究報告

各委員より, 容量係数, マランゴニ効果及び測定など
に関する 8 件の研究報告があつた.

第12回鉄鋼の急速凝固部会 開催日: 2 月 17 日.
開催地: 川鉄・千葉. 出席者: 大中部会長ほか, 40 名.
研究発表

- (1)Al₂O₃-ZrO₂ セラミックスの急速凝固
- (2)二相ステンレス鋼急冷凝固薄帯の組織
- (3)水平連铸法による薄铸片の铸造
- (4)非金属・金属系複相材料の超伝導
- (5)S45C 急冷薄铸片の特性
- (6)急速凝固プロセスにおける熱伝達係数

書 評

チタン合金状態図集

監修 美馬源次郎

本書は, サブタイトルとして“最近 20 年間のソ連における研究の集録”と明記しているように, ソ連科学アカデミー発行の雑誌「金属」に 1965 年から 1984 年にかけて発表されたチタン合金状態図を中心とし, 更に他の雑誌や単行本に掲載されたものを含めて, わが国のマテリアルズサイエンスインUSSR研究会(代表大阪大学 江南和幸)が集録, 編集したものである。

衆知のように, わが国はソ連に次ぐ世界第二位のスポンジチタンの生産国であるが, 航空宇宙産業の規模が小さいため, チタンの軽くて強い特徴を活かした合金としての用途は限られ, 耐食性を活かす用途に純チタンとして多用されてきた。しかし, 近年航空機産業に進展がみられ, また軽量高強度を利用する用途開発が積極的に進められ, わが国のチタン合金研究は一種のブーム状態にある。その研究開発の基盤として状態図情報は不可欠であるが, 従来は HANSEN の状態図集と ELLIOTT と SHUNK の増補に限られた二元状態図しか集録されてなく,

多くは個々の論文を丹念に深索することを強いられてきた。その意味からも, 本書の企画はきわめて時宜を得たもので, チタン合金研究の重要な参考資料となろう。

また, 本集録は状態図という地味な基礎研究を着実に蓄積してきたソ連の底力と, それに対してわが国のこの研究分野の空白について, 一種の感概をいだかせる書でもある。この辺の気持ちを, 監修者は推薦のことばの中で, “最近の日本の研究の風潮と相俟つて, 米国, ソ連, 西ドイツ等に比し大変少ない”と言ひあらわしている。

内容は, Ti 一成分系は温度-圧力状態図, 二元系は 17, 三元系は 45, 四元系は 12 で, 合計 77 が集録されている。論文から集録されたものは状態図だけではなく, 実験方法, 反応, 相領域, 結晶構造, 性質-組成図, 文献も提示されている。例えば, Ti-Al 二元系では, 1) Ti 側部分状態図, 2) 比抵抗・硬度・腐食速度-組成図, 3) 各文献に現れた状態図の比較, が示されている。多元系状態図の集録が多いのも特徴で, 既出の状態図集を補強補完して, チタン合金研究へ資したいという編集者の意図が読み取れる。貴重な集録である。

(河部義邦)

A4版 238 ページ 定価 48000 円
1986 年 8 月 (株)東レ経営研究所発行